

感謝祭 2012

“天の父、常にあなたのことを おぼえてられるように私たちを祝福して下さい。
あらゆる祝福があなたからいただいたものであるということを忘れませんように。”
パラマハンサ ヨガナンダ

渡米されたごく初期の頃から、私たちの祝福されたグル、パラマハンサ ヨガナンダジはアメリカに於ける国民の祝日としての感謝祭を、そしてその理念に含まれているどれか一つの宗教だけという宗派的な境界を克服することの霊的な重要性をとて高く評価しておられました。感謝祭は私たちに恵みを与えて下さる普遍的な神の無限の豊かさに対する確信を呼び起こしてくれます。それは例えば、何か必要な物が適切な時に手に入ることであったり、思いやりのある友人や家族の思いがけない優しさであったり、困難に直面した時、努力を続ける為は何も言わずに与えて下さる勇氣と強さとして、神の愛が私たちの生命に触れた様々な場面を思う時、今も、そしてこれまでもずっと神は注意深く私たちを見守っていて下さっていたのだということを理解することができます。“毎日を感謝の日にしなさい。”グルジはこう言って私たちに励まして下さいました、“そうすれば、いつまでも続く満たされた思いがあなたの身体、心、魂の内に於いて光り輝くだろう。”

損得を考えずに純粋に神に感謝をささげることは、神からの贈り物に対して幸せな気持ちで感謝するよりも大切です。それは神に対する喜びに満ちた献身的な行為であり、見返りを求めること無くささげられる無条件の愛の表現だからです。それは私たちが差し上げることのできる最も親しみを込めた贈り物です。そして心から溢れ出るその思いが過去から未来永劫にわたって抱き続けて来た見返りに何かをいただくという気持ちをきれいに洗い流し、神を愛し敬いながら自らを完全に神にささげるといふ唯一の思いに集中することができるようになるのです。

このように考えて神というあらゆるものを与えて下さる本当の送り主に感謝をささげることによって私たちの意識にとて深い霊的な変化が生まれます。それは一つの生き方として人々の中に善意を見だし、そして自分が置かれている環境に於いてより良い機会を獲得し、認識することを可能にしてくれます。そうすると私たちの心はマーヤ（迷妄）の闇にではなく光り輝く神の存在に、貧しさにではなく豊かさへと向けられます。そしてあらゆる善きものの源泉である神との結び付きを感じるようになり、信仰と自信という生命を活性化する力が私たちの内に流れ込み、限界を感じさせていた障害を一掃し、霊的成長という旅に於いて新しい道が開けて来ます。人生のあらゆる局面に於いて神の働きを見る時、私たち

の内に聖なる叡知が実ります。その時まで、たとえ何が起きようとも、神を知る聖者と共にこう言いましょう、“主なる神、ありがとうございます。これはあなたからいただいたものであるということを私は知っています。”

この世という創造のドラマのそのすべては神がご自身を現^{あらは}されているこの世のあらゆるものの背後に、愛に満ちた聖なる神の存在を見つけることに他なりません。感謝をすること、そして毎日瞑想をすることによって生じる洞察力を通じて皆さんが神の存在を常に身近に感じることができますように。これが私から皆さん一人一人への心を込めた祈りです。

神とグルの尽きることの無い祝福を込めて

スリ ムリナリニ マタ
(*Sri Mrinarini Mata*)

Copyright © 2012 Self-Realization Fellowship. All right reserved

この原稿に関するすべての著作権は
セルフ-リアリゼーション フェロウシップが所有しています。

この原稿は横浜瞑想サークルが独自に翻訳したものであり、
SRF の正式な翻訳ではありません。横浜での瞑想会は毎月、
第 4 土曜日に大倉山記念館、第 4 集会室で行っています。

感謝祭 (Thanksgiving Day) : 感謝の日、感謝祭。米国では 11 月の第 4 木曜日。
1620 年、信仰の自由を求めてアメリカに渡ったピルグリム ファザーズ (巡礼始祖)
がその最初の収穫を神に感謝したことに由来する。七面鳥とパンプキン パイが当日
の伝統的な料理。